

だいたい(1)にあたるでしょう。また中学生は(2)にあたるかもしれません。人間は「おぎゃあ」と生れた時から社会的人間ですが、その占める位置は小さいのです。ですからここでは社会的なことができなくても誰も笑いません。幼稚園の場合は、個人的なことが多く

音楽リズム

問 リズム音痴の矯正法についてですが、リズム音痴は幼児期になおさねばならないのでしょうか。それとも小学校まで放っておいてもいいのでしょうか。

戸倉 幼稚園・小学校にはいった子どもにスキップをさせると、四十人の子どもが四十人とも全部できるということはない。一人、二人は必ずできない。このような子どもには、無理に直そうという努力はしない。一例をあげると、幼稚園にはいつてきた「花子」は、スキップができないで黙ってみているだけである。そのうちに、よくできる「千代子」と一緒に手をつながせると、始めはできなくて一緒にかけているだけであったが、六か月頃になるとだんだんスキップができるよ

うに好きなことをどんどんすることがあつていいのです。しかし幼稚園になると、社会性が幾分含れてきますから社会性を全く無視することはできません。成人すれば知的なリズムを描くのですが、幼稚園では知っていることを描くのです。

ム

指導戸倉ハル

うになった。このようにできない子にも母親に連絡をとって「そのうちにできるようにする」と伝えて心配させないようにしてください。こういうやり方は決して不親切ではなく、やっているうちに自然に感覚の中にはいつてきてできるようになります。

問 いつも疑問に思っているのですが、スキップやギャロップまたはアクセントをつける動作など基本的なものとは創作表現とをどのように取りまぜたらよいでしょうか。私たちは、ときどき既成の遊戯をとり入れると子どもは喜ぶのですが、それを創作表現にどのようにもつていったらよいでしょうか。

戸倉 創作については、どなたもつきあつていらつしやる問題だと思います。遊戯とは、いわゆるダンスと呼ばれるもので、小学校ではリズム運動、中学校ではダンスと名称が違います。それは、身体の発達程度に合わせて遊戯がつくられるからです。私たち幼稚園でやる遊戯は、ダンスの末分化のものだと考えていただきたいのです。

私たちの思うことを音に表わしたら一連の曲ができます。私たちの思うことを色で表わすなら絵になり、それをことばであらわしたら作文や詩になります。そして、私たちの思いの身体の作文がダンスです。このダンスは年とともに変化してきました。時代によって、地方によって、またはその形式によって、種類が分けられています。私は、生活の中で遊戯やダンスをながめるのが一番良いと思います。

私は身体的作文であるダンスを三つにわけたいと思います。

皆さんがバレエを見にいく。これは、芸術の鑑賞です。パーティなどで社交ダンスをする時、フォークダンス・スクエアダンスをおやりになると、それは民謡を踊ったことになると。学園でするダンスは、舞台のものではあ

りません。舞台でやるのは芸術です。社交ダンスの目的は、交友ですから学園でやる必要はありません。民謡は娯楽としてやるのであり、また外国のリズム・遊戯を知る道ですのでやっています。では、学園では民謡だけをやっていけばよいのでしょうか。やはり学園だけのダンスを樹立しなければなりません。下は幼稚園から上は大学まであり、この長い学園のダンスを一本のコースとしてたてたいと思います。幼稚園の遊戯も中学以上のダンスもいずれもダンスです。幼稚園や小学校では物の動きを描写する形をそのままとっている。そしてそれをリズム化している。中学以上はそれではいけない。というのは、作文であるからです。

たとえば、すべての花が落ちて若葉になった。日が若葉にちらちらしている。青葉が風にゆれている。この初夏の日に、私は明日を期待するという感想を表わすために踊らなければならぬ。私は何か感じたらずらみま。それがダンスなのです。ダンスは心身の作文ですから、ここに創作ということが必然的に起ってきます。創作といっても教えないでできるものは一つもありません。ダンスを作ることで大切なことは（子どもにはたいし

て必要はありませんが）からだを思うままに動かすこと、リズムの観念の把握の練習をする、表現すべきものをよく知ること、この三つの創作への道を研究しなければなりません。

既成の作品を多く子どもに与えることは、創作への道として一番大きな段階です。なぜならば、既成の作品——その時代時代のよい作品——はリズムを通して表現能力ができてくるし、また構成能力も養われる。幼稚園では作品を通して遊戯というものを理解する位でいいと思います。その後で作らせることにします。たくさん既成の作品を与えることは内容をそれだけ豊かにします。

問 子どものリズムというのは、作文であって美的なものを要求しなくてもよいとお聞きしたのですが、私は美的感覚を重視したいと思いますか……」

戸倉 私のいいたいのは幼児の時ではできるだけ簡単にしてだんだん大きくなるにしたがって次第に複雑なものになるということで、幼児にも美的感覚は必要です。

問 創作の時、既成のものを幼児に与える場

合、その選択の根拠はどこにおいたらいいでしょうか。

戸倉 作品選択の方針のことですが。音域のせまいもの例えば六度位のもですが、これは大変むずかしいです。ほんとうは、オクターブまたはそれ以上でない作曲はむずかしいのです。作曲家は「お経のような曲になつてしまふ」といいます。私は、中山善平さんの「てるてるぼうず」が好きで今でも歌っていますが、あれはおとなが歌って美しいのですが、子どもが歌っているのを聞くと子どもは声をおとしています。それゆえ、子どもがらくに歌える音域のものがが必要です。歌詞は長いもの、また覚えるに労力のいるものはさけた方が良く、二音節くらいのものが良いと思います。しかし、主題が物語ならば五六節になってもさしつかえありません。遊戯は面倒なものでなく簡単なものが多いのです。

問 リズム教育の導入の方法についてお教え願いたいです。この間、子どもたちがカニを見つけたので、床にはわせて、カニのリズムに合ったピアノを弾いて、動きの表現を自

由にさせ、それを曲の方へもっていきまし
た。これを自分としては、自然に観察からリ
ズム遊びへと導入できたと思っているので
が、この他に強制的ではなく自然にするよい
方法はありませんか。

戸倉 こういうのも一つの方法だと思いま
す。すなわち、表現導入の方法として、私ど
もの生活、主に歩く、走る、とぶという三つ
のものをとりあげます。この三つを音楽的に
し、何の表現でもこれを使えばやさしいので
す。表現というのは、自然環境から自然に得
たものをリズムに再現したものです。私がチ
ョウチョウをみると、あの既成の曲では感じ
を表わせない。あの曲に合わせると、シオン
オとした元氣のないチョウチョウになる。既
成の曲では間に合わないのです。そこで子ど
もが汽車をした時は、子どもの動作、リズム
を見て、先生が子どもの動作に合せていくよ
うにする。このことは子どもの表現を助ける
ことにもなるし、またそうすることで幼児の
表現の意欲を満足させることになるのです。
「ムスンデ、ヒライデ」という歌の曲は、明
治時代にスイスの人が作ったのですが、とて
もいい曲です。この曲の終りに「カニさん」
というところ、カニになり、カニの動作に先生

リズムをあわせると子どもも満足するので
す。五十人の子どもがいる時には、一人ずつ
やらせ、一人ずつのリズムを作ってやるので
す。カニの時でも一人ずつやらせると注意深
く慎重になります。そういう導入の時間もち
るとよいと思います。

問 楽器を使う時、間が大切ですが、休みを
待っているのは子どもには難しいのですが、
カスタネットを使う時待てない場合が多いの
です。その休みの間の持ち方をどういうふう
にすればよいのでしょうか。

A 楽器をもたせる前に全身でリズムをとら
せます。私のところは、関西ですので「せつ
せつせ」という曲でお友だちと手を打ったり、
また自分の手とひざを使ってリズムをからだ
で感じさせることになり、役立っています。

B 私は、昨年と今年と一年保育を持ちまし
たが、最初にハンドカスタを持たせましたが、
最初は歌いながら打つことが精一杯でした。
最初では歌にのってリズムを打つことは、無
理ではないでしょうか。いくら理屈で休み、
いくつ打つといっても駄目で、やはり自然に
からだの中にリズムがはいるのを待って、そ

の後でリズムに合せるようにしました。

戸倉 私は何となくリズムを知らせるという
のが大好きです。これが幼稚園教育では大切
です。休止符ということ、また間を置くこと
は大切です。ことばにも大切です。ダンスに
も大切ですし、子どもにとっても、大切なこ
とです。しかし、それは難しいことです。私
は二拍子を打ち休みのあるのを知らせませ
す「お花をかざる」の曲で「おはなをかざる、
トン、みんないい子、トン」という二つの休
みを一年の間にできるようにしなければよいの
ですが、強制的ではなく、自然に体得させま
す。幼稚園では、音楽や遊戯は強制的にやら
ないことが大切です。

(お茶の水女子大学付属幼稚園にて)

*

*

*

*